好きなこと慣れたことなら友だちの中で取り組める子

倉　　真理子

入学式当日、お母さんの後ろに隠れて顔中鼻水でくしゃくしゃにして泣いていたK児。やはり4月当初、朝いつも泣いて学校にやってきていたK児。それでも学校に慣れるにつれて、給食中に大きな声で歌を歌い自分の喜びを表しだしたK児。やがてそんなK児も家に帰ると学校のことをお祖父さんお祖母さんに話すようになったとの報告が聞かれるようになった。将来自分の思いをしっかり持ちながら集団の中で生きていく子をめざして、先の長い12年一貫教育の一年目としてのK児への取り組みを述べてみたい。

1．実　　態

(1) 成育歴

昭和58年5月20日生。　　7歳5ケ月　小学部1年生　男子（第2子）。

昭和63年4月　K町立H保育所入所。

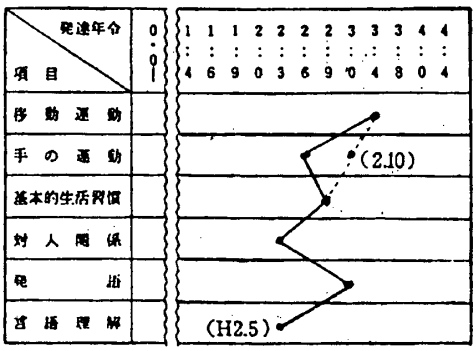
平成元年4月　K町立H幼稚園入園。

平成2年4月　本校入学。

(2) 発達検査等における実態

○図1で示す遠城寺式乳幼児発達検査では2歳3ケ月～3歳4ケ月の発達を示している。また個人内差は大きく、出来方も弱い。

○MEPAでは現在第4ステージを通過中の子どもである。ただし第3ステージの対人関係の項目でまだクリアーしていない項目もあり、またそれぞれの検査内容の出来方は遠城寺式検査同様弱い。（P37参照）



〔遠成寺式乳幼児発達診断検査〕（図1）

この形式でデータは以下

移動	3.4	3.4	対人	2.3	2.3
手の運動	2.6	3.0	発語	3.0	3.0
基本的	2.9	2.9	理解	2.3	2.3
	(H2.5)	(2.10)		(H2.5)	(2.10)

［図1　遠城寺式乳幼児発達診断検査］

○筋力面からみた運動の発達は3歳に満たない段階にあると考えられる。

(3) 行動面からみた実態と主な問題点

○友だちとの関わりを嫌い一人遊びを好んでする。

○語彙は豊富で自由に言葉を使っているように見えるが、指示が通らない場合もあり言語理解という面では遅れていると思われる。

○新しい環境に適応しにくかったり、未経験なことの取り掛かりに抵抗を示したりする。

○次の活動の見通しを持って活動しようとするがその時点でしている活動に十分取り組めないことが多い。

2．取り組みの構想

上記のようなK児に少しでも皆の中で関わりを持ちながら生活していってほしいという願いを持って「好きなこと慣れたことなら友だちの中で取り組める子」という個人目標を設定した。

(1) 指導仮説

つけたい力

・着脱や食事等基本的な生活習慣に関わる力　・からだを動かして遊ぼうとする意欲
・友だちのいるところで遊んだり少しは友だちと関わる社会性　・身体意識の向上

↓

仮説

認識のレベルに比べ、からだを動かしたり、からだを使いこなしたりすることに遅れが認められる。これは、本児の内向的な性格によるところもあるが、周りの人や本人ができないと決めてしまって本児がする機会を奪ったり、取り組み易いことに本児が逃避してしまったりした結果、本児の経験を少なくしてしまったと考えられる。

楽しく取り組めるような工夫をするとともに、できる状況を作りながら教師と共に取り組ませ、できる喜びを持たせながら経験を増やしていくことによって上記のような力がついていくと考えられる。

↓

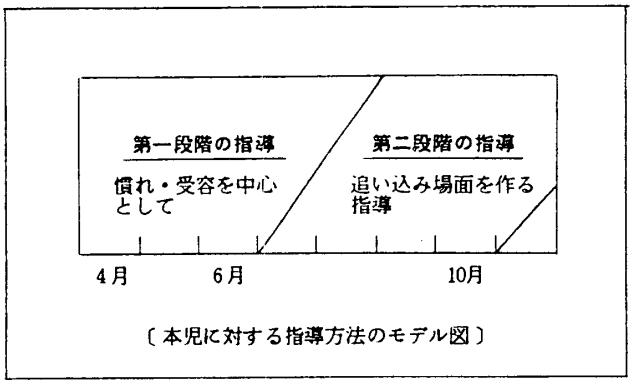
からだの面からの個人目標

先生と一緒にからだを動かしたり、先生のいうことを聞きながら
からだを動かすことを楽しむ子

(2) 指導方針

まず第一段階として学校生活に慣れることに重点をおく。その期間を6月ごろまでとし受容と援助をその手立てとして本児に接していく。次の段階では本児を少しずつ追い込む場面を作る。また同時に教師の「待ち」の援助を重視して本児の主体性や意欲を大切にしていく。

10月の時点では個人目標の「友だちの中で」は友だちのいるところでという捉え方をし少しずつ友だちとのかかわりの場面を作って行く。



〔本児に対する指導方法のモデル図〕

3．指導の経過

(1) 第一段階の指導（4月～6月）

《日常生活の指導》

①衣服の着脱　幼稚園からの調書ではできると記入されていることを殆どしようとしない。ぼんやりつったっていたりしゃべっていたりすることが多い。声かけ，援助をしながら促す。6月上旬服の前後は良く間違えるが朝の着替えが大変早くなる。「早く着替えてバスで遊ぶ」という見通しを本人が持ったためである。帰りの着替えは朝ほど早くはない。他児が着替えをしていてもほとんど気にならない様子である。しかし、6月の中旬になると今までほとんど援助で行ってい

たボタンはめ（幼稚園では第１ボタン以外はできていた。）を自分でし始めた。これは単にできなくなっていたことができるようになったと捉えないで、しようとする意欲ができてきたという捉え方をしたい。

②遊び　一人遊びをしっかりさせる。その遊びに教師が入っていくことを方針とした。本児はおもちゃのバスで学校探検をして遊ぶことを覚えて楽しんでいた。バスを動かすことと新しい場所を見て回れることが楽しい様子であった。この遊びを通して学校の中での先生方とのかかわりが増え大人とのかかわりが広がっていった。しかし始めの方針に反し他児との関係でなかなか本児の遊びに入り込むことができず、バス遊び場面での指導は難しかった。

〔紐通しをするＫ児〕

上記以外にも遊びを広げていきたいと紐通しや粘土遊びの型押し等の遊びに誘ってみた。取り掛かりは抵抗を示していたが慣れてくると自分で道具を出し遊んでいることもあった。

《学習場面》

着席行動は入学当初からとれていた。話もよく聞いていたが返事等の反応は、ほとんどなかった。特に音楽が大変好きなはずなのに音楽が聞こえると席を立つという行動がみられた。また手遊びは全くといっていいほど出来なかった。音楽や体育のような合同学習の場面ではもっとその様子は極端に表れ、集団から外れて隅にうずくまっている様な状態が続いた。機会を見て連れ戻し手を持って体を動かしてあげる等の援助を行った。あまり無理はしないという方針は持ち続けていた。

(2)　第２段階の指導　（７月～現在）

《日常生活の指導》

①衣服の着脱　現在朝の着替えはほぼ一人で出来だした。帰りは時間がかかるが声かけだけでできだした。特にプール学習の水着の更衣は目を見張るものがあった。

〔水着の更衣をするＫ児〕

②食事指導　食べ物を非常に良くこぼす。これは本児が唇を使えないこと，箸が上手に扱えないことに起因するものである。こぼさないためにパンは少しずつちぎって食べさせる等の指導を行ってきたが、まず食べる意欲を持たせることを最優先として考えた。一方では唇を使ったことば遊びやシャボン玉等の遊び等を取り入れながら食事場面での指導も行っていた。

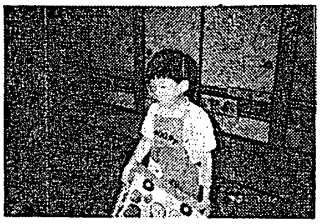
③遊び　第一段階のバス遊びから自転車遊びに発展してきた。また遊びに対して自主性も見られだした。第一段階では遊びの中に教師が入っていきたいと考えていたが、運営上無理な状況もあり、一人遊びとして時間を保証していこうと方針を変えた。これは本児と教師のかかわりが他の学習場面でもかなり持てるという見通しがついたからでもある。

〔自転車乗りをするＫ児〕

《学習場面》

①単元「水遊び宿泊」における基本的生活習慣

単元「水遊び宿泊」は水遊び，花火，おやつ作りを楽しさの要素としながら、衣服の着脱・入浴・食事・排泄等の基本的生活習慣の習得をめざした単元である。この中で本児は文字を読むことができる力を使ってランチマットを配るお手伝いをしたり、友だちといっしょに楽しんでお風呂に入ることができた。それ以上この宿泊での収穫は、生活訓練棟の和室から出ていこうとせず２日間ずっと友だちと過ごせたことであった。



［ランチマットを配るＫ児］

［友だちと一緒に風呂に入るＫ児］

②単元「たなばたはっぴょうかい」の取り組みから　Ｋ児の１組は劇遊び「はてさてこりゃなんだ」を発表した。劇遊びは音楽好き、お話好きの本児にとって得意の活動であった。指導の手立てとして、シナリオの台本やテープを持ちかえらせたり学校でも繰り返し練習することによって発表会では自主的な動きも見られるようになってきた。

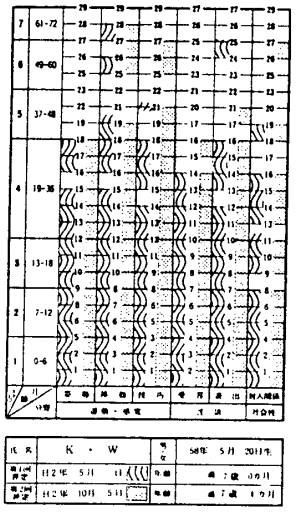
〔かめになって演技するＫ児〕

また、友だちの演技をしっかり見たり友だちの台詞を覚えたりするという面も見えてきた。

③調理遊びの学習　Ｋ児の１組の１学期頑張った会をすることになり、お好み焼を作った。キャベツは手でちぎって調理することにした。普段の生活の中ではなかなか手をつかった作業をしようとしない本児が熱中してキャベツちぎりに取り組んだ。

［お好み焼きのキャベツちぎり］

4．反省と今後の課題



［図２　ＭＥＰＡプロフィール表］

先の見通しばかりで現在の仕事に熱中することが出来ない子という見方をしていたが、大好きな遊びやプール学習等自分にとって楽しい見通しがある活動に対しては丁寧さに欠けるが自主的に集中して取り組めまた指示も聞ける。できる経験を増やすとともに楽しいと感じれるような活動を用意することが本児にとって大切である。ＭＥＰＡを10月再度検査した。５月にできなかったことができたりできかたも確実になったりしてきている。学校生活全般の指導でこの成果が表れてきていると思われる。人とのかかわりはまだまだ持てないが友だちのしていることに興味をもってそっと見ている場面も見られた。まだ活動を共にすることは難しいが無理をせず少しずつ皆の中で過ごせるようにしていきたい。